

保幼小中一貫教育だより ～豊かな自然と豊かな人材で豊かなこどもを育てる～



豊能の風

発行：豊能町教育委員会 第25号 R2.7.1

保幼小中一貫教育の推進

「小中一貫教育」は、小中連携教育のうち、小・中学校段階の教員が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育です。単に小学校と中学校を組織として一緒にするだけでは成果を上げることはできません。義務教育9年間を連続した教育課程として捉え、児童生徒・学校・地域の実情を踏まえた具体的な取組内容の質を高めることが大切になります。

義務教育修了段階の子ども達の状況を見通しながら、連携して教育活動を高度化させていくという観点からは、小中一貫教育と併せて、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を進めていくことも重要です。本町では、義務教育9年間に就学前教育の6年間を加え、15年間をつなぐ「保幼小中一貫教育」を推進し、一貫性・継続性・発展性を大切にした教育を平成28年度より進めています。

*小中連携教育…小・中学校段階の教員が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育



「保幼小中一貫教育」を推進する背景には、児童生徒の心や発達の早期化、「小1・中1ギャップ」などの課題克服があります。そうした中で、従来の6-3制から、新しい学びの段階（9年間の区切り）を検討しています。



就学前6年
認定こども園
幼稚園 保育所



前期4年
小1年～4年



中期3年
小5年～中1年



後期2年
中2年～3年

<保幼小中一貫教育で見込める効果>

- ◇15年間を一貫した教育 → 学力・体力の向上
- ◇「小1・中1ギャップ」への対応 → いじめ・不登校・問題行動の減少
- ◇異校種・異学年の交流 → 自己肯定感の向上（上級生に対する憧れ、下級生のいいお手本）
- ◇教職員間の連携・協力 → 教職員の意識・指導力の向上

日本漢字能力検定を開催しました

豊能町では「ことばの力向上推進事業」の一環として、平成30年度より希望者を対象に「日本漢字能力検定」を小学校で実施し、検定料の助成をしています。今年度も6月19日（金）に各小学校で実施しました。

東ときわ台小会場



光風台小会場



開始前は緊張する様子も見られましたが、試験が始まると、子ども達は集中して取り組んでいました。

「とよの未来科」創設にむけて

豊能町では、「グローバル人材」の育成をめざしています。その具体的な取り組みの1つとして、「とよの未来科」の創設を推進していきます。「とよの未来科」は、子ども達がふるさとを愛し、豊能町に誇りをもてるようにするための学び全般です。

「とよの未来科」では、「とよの（ふるさと）」について学び、その学びで得た経験を活かし、グローバルな視点で「豊能町の未来」のために自分たちでできることを考える、子ども達が主体的に学習に取り組むことを目指します。

今後、ふるさと♡とよのと題し、本紙でも豊能町について少しずつ紹介していきます。記念すべき第1回は、「町章について」です。

【豊能町の町章について】



4つのひらがなの「と」と中心の「の」でデザインされており、各地域の協調、バランスのとれた調和を保ちながら、町が発展していったほしいとの願いがこめられています。外側に浮き出る木の葉4枚と基本色の濃い緑は、豊能町の美しい自然環境を表しています。

今から43年前の1977年、東能勢村が町政施行・改称して豊能町となったときに制定されました。

3・4年生が使う社会科副読本「わたしたちのまちとよの」にも掲載されています。

